

# 平成30年度「県民Webアンケート」 第4回 奈良県のエネルギー施策に関する意識調査

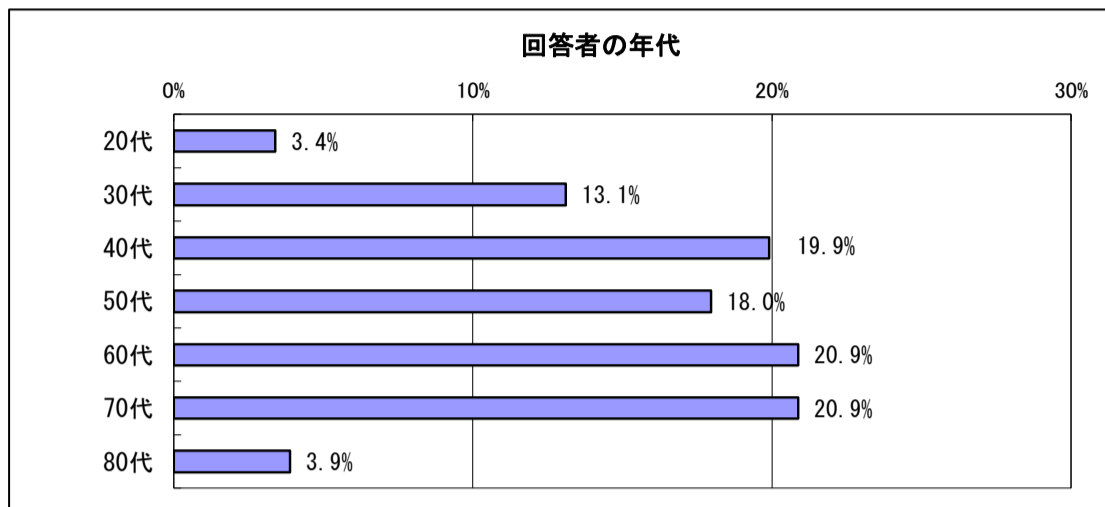
○実施期間 2018/8/16~2018/8/22

○アンケート会員数 228人 回収数 206件 (回収率 90.3%)

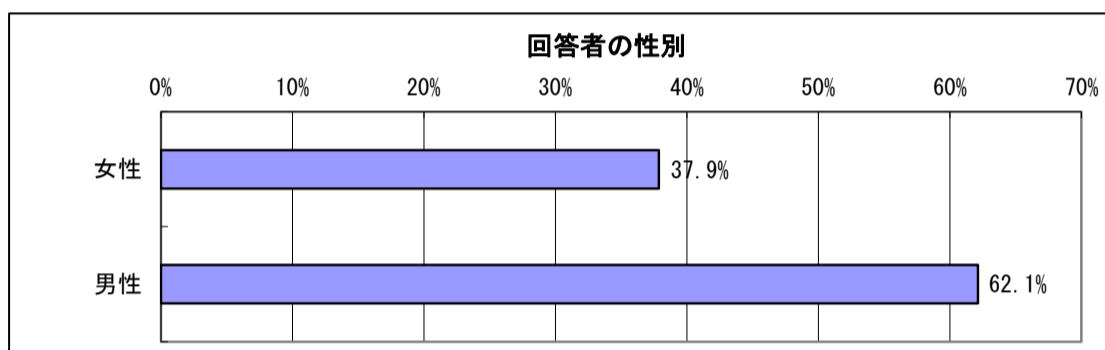
○奈良県のエネルギー政策は、東日本大震災を契機として定着した省エネ・節電スタイルの継続、緊急時のエネルギー確保、再生可能エネルギーの地域での取組や多様なエネルギーの利活用の推進を基本方針としています。

最近の国の動向では、新たなエネルギーの選択肢として「水素」を活用する取組強化の考えが示されています。今回、再生可能エネルギーや、水素を燃料とした次世代自動車等に関する意識調査にご協力いただき、今後の施策を検討するための参考指標として活用したいと考えています。

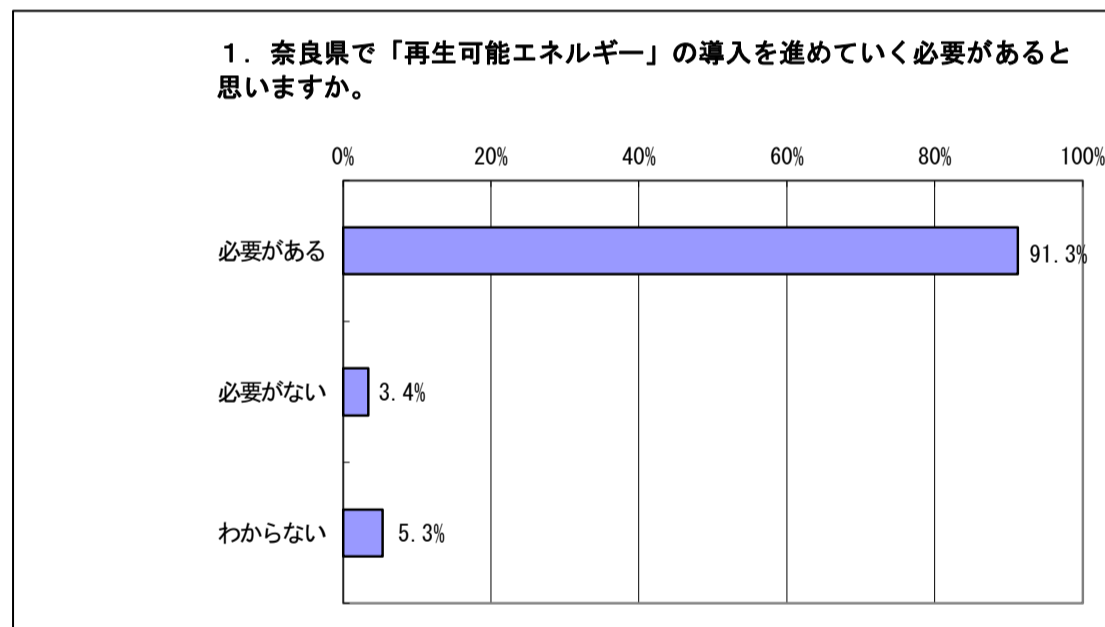
回答者の年代	回答数	比率
20代	7	3.4%
30代	27	13.1%
40代	41	19.9%
50代	37	18.0%
60代	43	20.9%
70代	43	20.9%
80代	8	3.9%
総計	206	100.0%



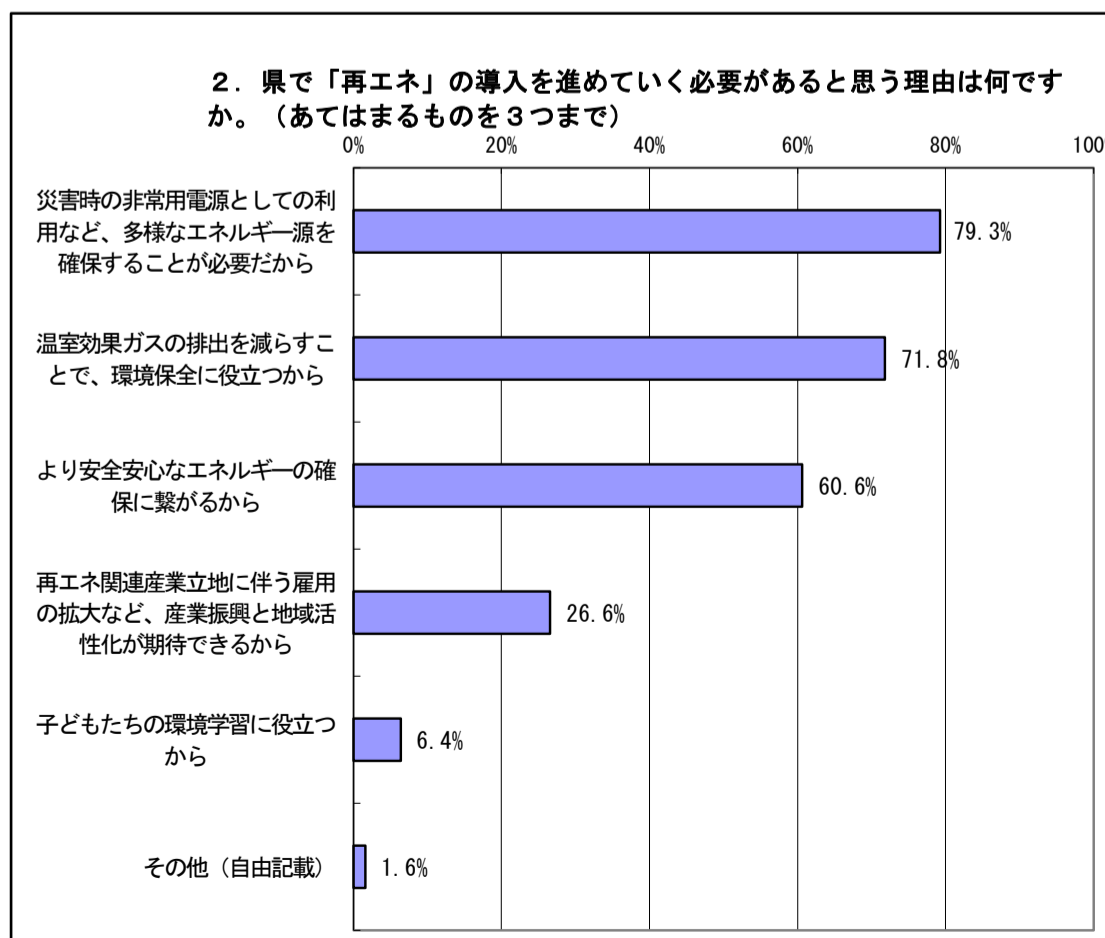
回答者の性別	回答数	比率
女性	78	37.9%
男性	128	62.1%
総計	206	100.0%



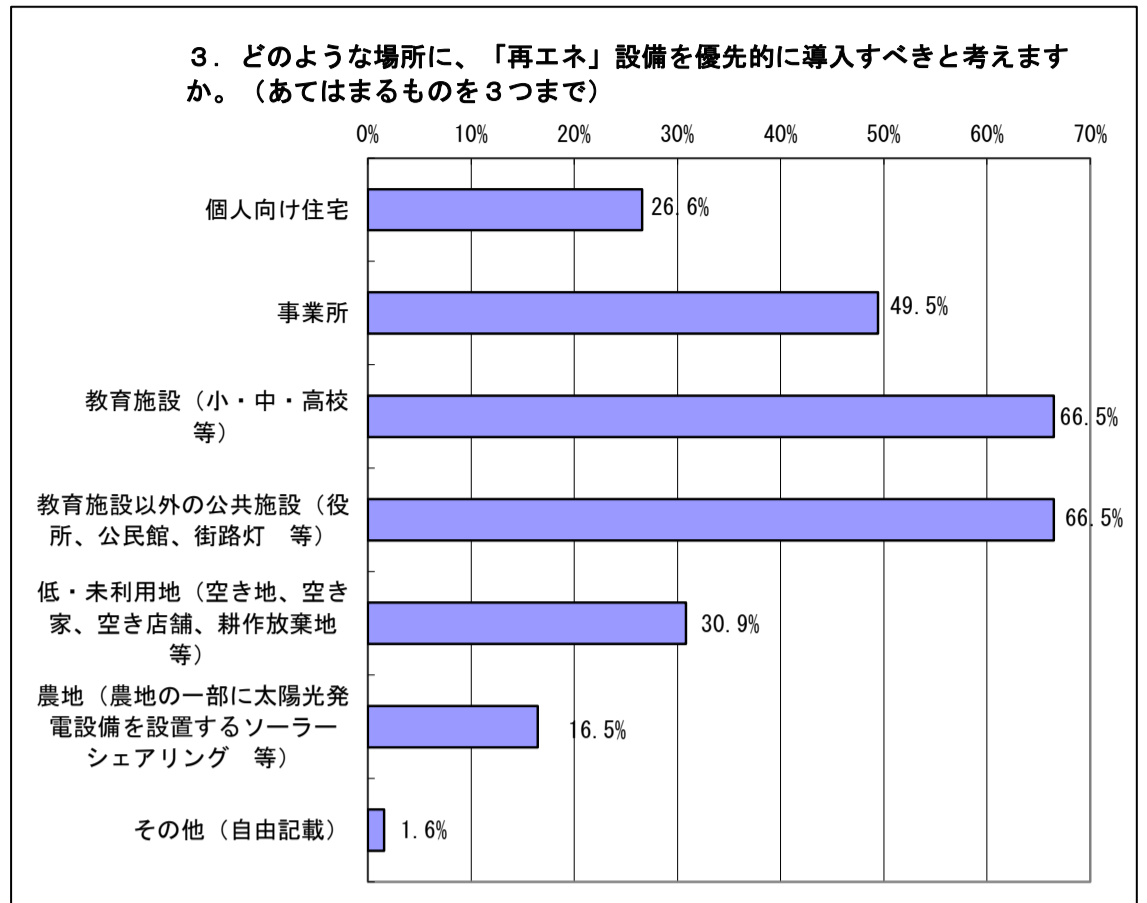
1. 奈良県で「再生可能エネルギー」(以下「再エネ」という)の導入を進めていく必要があると思いますか。	回答数	回答対象者	比率
→この設問(Q1)で「1. 必要がある」を選択された方はQ2へ、「2. 必要がない」を選択された方はQ4へ、「3. わからない」を選択された方はQ5へ			
※「再エネ」とは、自然環境の中で繰り返し、枯渇することなく、エネルギー源として永続的に使用することが可能と認められるエネルギーのことで、太陽光、水力、バイオマス、風力、太陽熱、地熱等が該当します。また、再生可能エネルギーは発電や熱利用時に二酸化炭素をほとんど排出しない地球に優しいエネルギーでもあります。			
必要がある	188	206	91.3%
必要がない	7		3.4%
わからない	11		5.3%
総計	206		100.0%



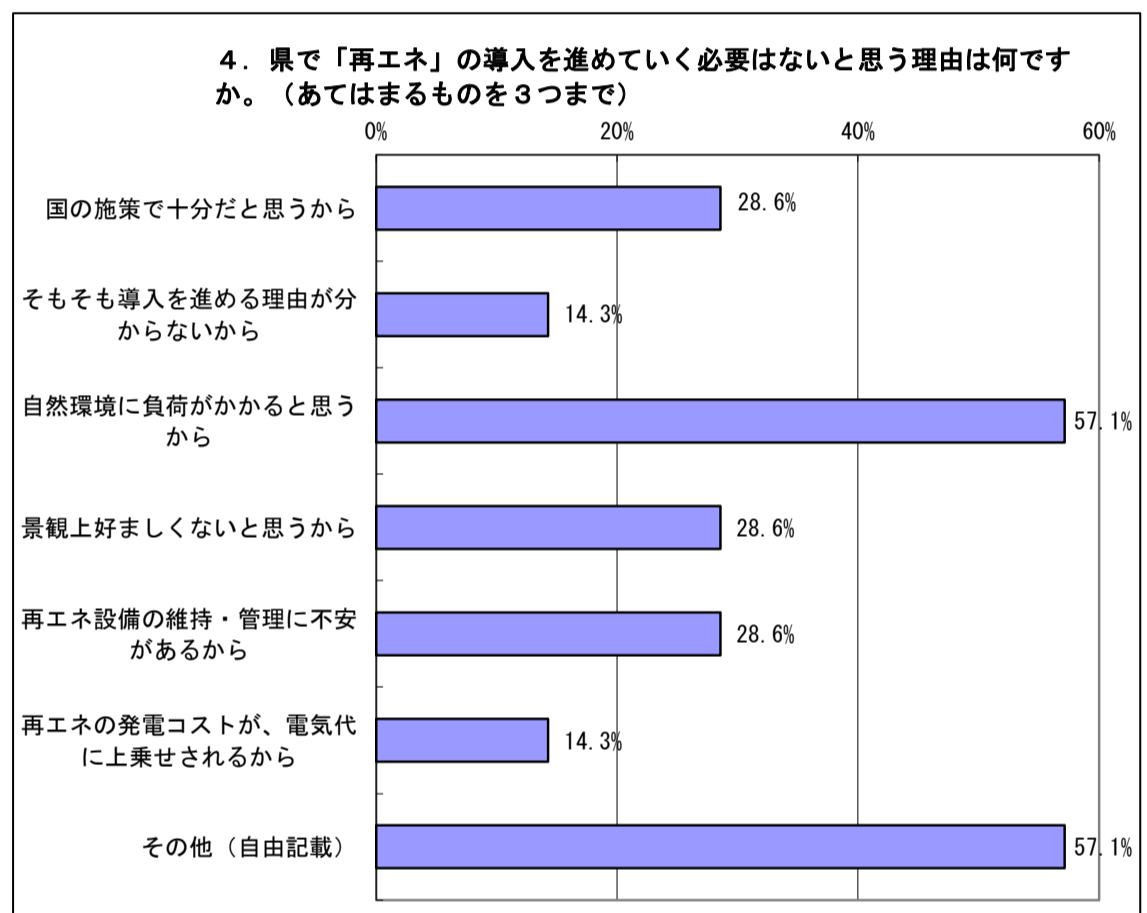
2. Q1で「1. 必要がある」を選択された方にお聞きします。県で「再エネ」の導入を進めていく必要があると思う理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで)	回答数	回答対象者	比率
→回答後Q3へ			
災害時の非常用電源としての利用など、多様なエネルギー源を確保することが必要だから	149	188	79.3%
温室効果ガスの排出を減らすことで、環境保全に役立つから	135		71.8%
より安全安心なエネルギーの確保に繋がるから	114		60.6%
再エネ関連産業立地に伴う雇用の拡大など、産業振興と地域活性化が期待できるから	50		26.6%
子どもたちの環境学習に役立つから	12		6.4%
その他(自由記載)	3		1.6%
総計	463		-



3. Q1で「1. 必要がある」を選択された方にお聞きします。 どのような場所に、「再エネ」設備を優先的に導入すべきと考えますか。(あてはまるものを3つまで) →回答後Q5へ	回答数	回答対象者	比率
個人向け住宅	50	188	26.6%
事業所	93		49.5%
教育施設(小・中・高校等)	125		66.5%
教育施設以外の公共施設(役所、公民館、街路灯等)	125		66.5%
低・未利用地(空き地、空き家、空き店舗、耕作放棄地等)	58		30.9%
農地(農地の一部に太陽光発電設備を設置するソーラーシェアリング等)	31		16.5%
その他(自由記載)	3		1.6%
総計	485		-

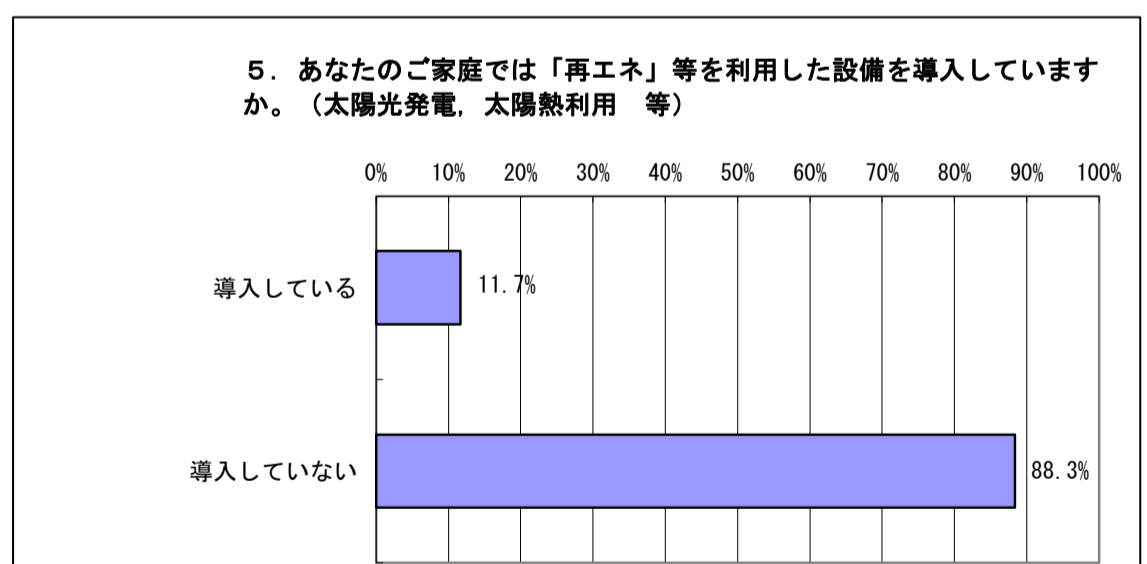


4. Q1で「2. 必要はない」を選択された方にお聞きします。 県で「再エネ」の導入を進めていく必要はないと思う理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで) →回答後Q5へ	回答数	回答対象者	比率
国の施策で十分だと思うから	2	7	28.6%
そもそも導入を進める理由が分からないから	1		14.3%
自然環境に負荷がかかると思うから	4		57.1%
景観上好ましくないと思うから	2		28.6%
再エネ設備の維持・管理に不安があるから	2		28.6%
再エネの発電コストが、電気代に上乗せされるから	1		14.3%
その他(自由記載)	4		57.1%
総計	16		-

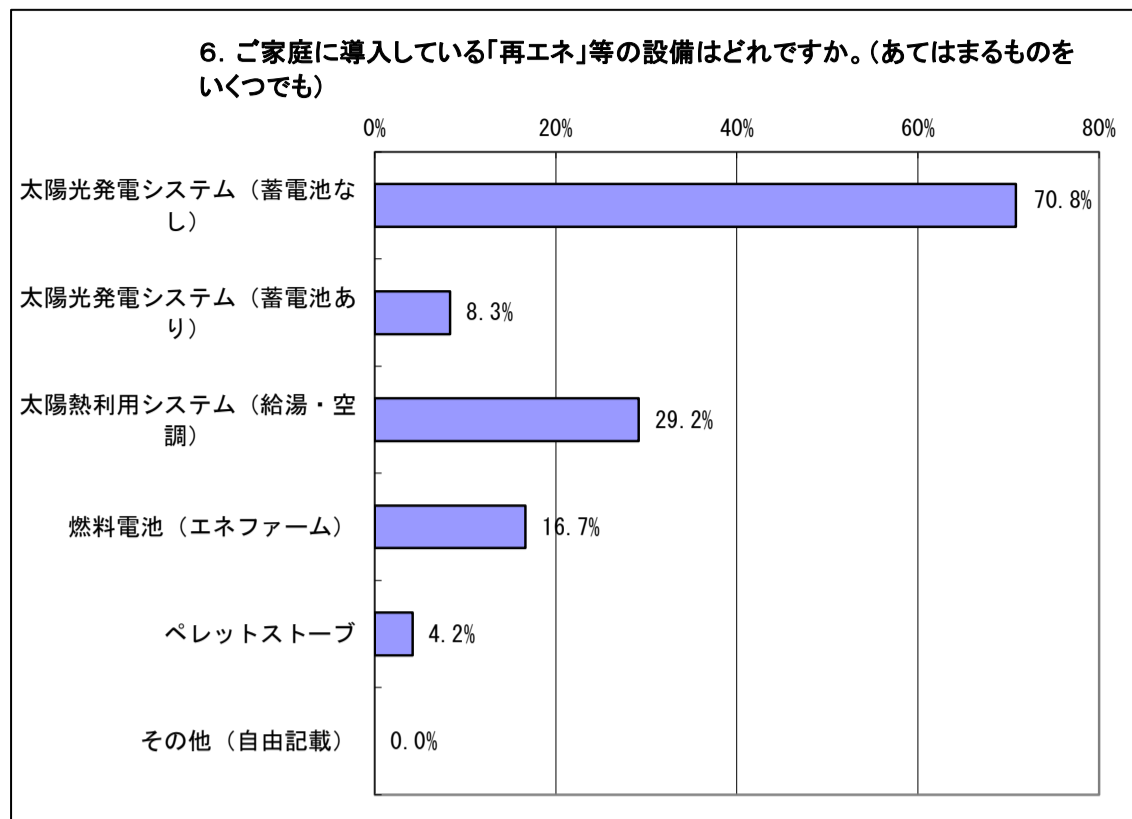


その他(自由記載) 一部抜粋  
再エネでは定常電力の供給ができない恐れがあると考えられるため。

5. あなたのご家庭では「再エネ」等を利用した設備を導入していますか。(太陽光発電、太陽熱利用等) →この設問(Q5)で「1. 導入している」を選択された方はQ6へ、「2. 導入していない」を選択された方はQ7へ	回答数	回答対象者	比率
導入している	24	206	11.7%
導入していない	182		88.3%
総計	206		100.0%

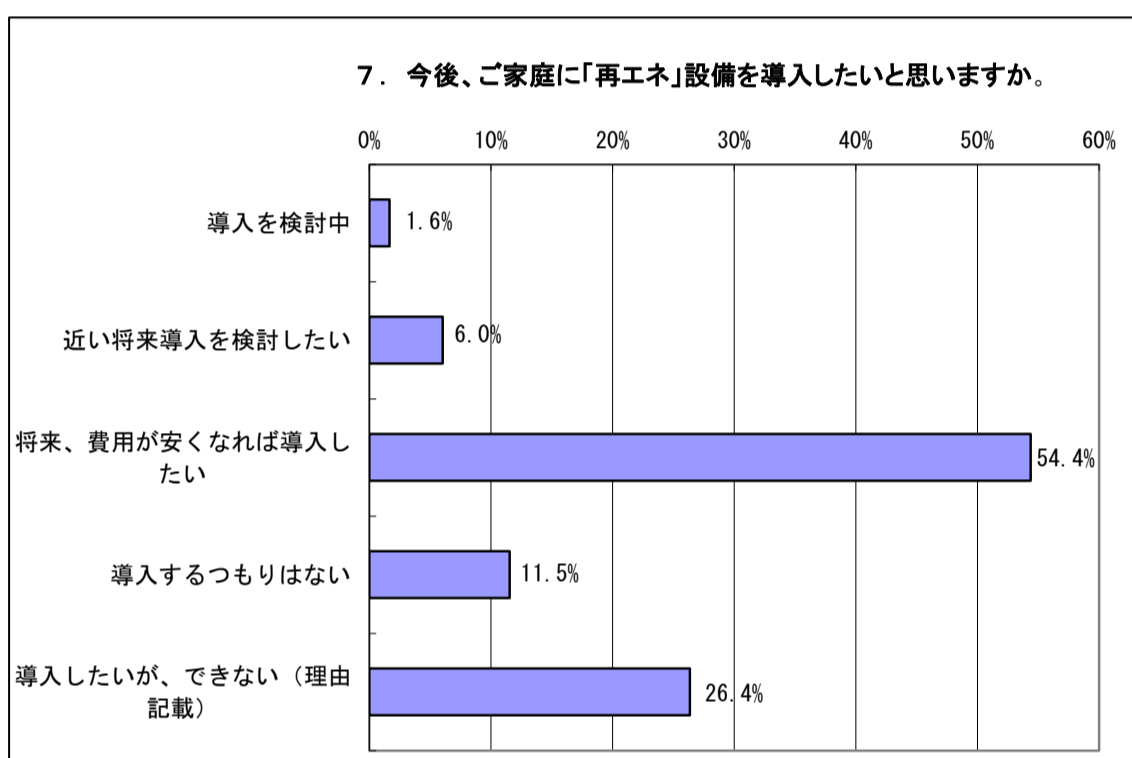


6. Q5で「1. 導入している」を選択された方にお聞きします。 ご家庭に導入している「再エネ」等の設備はどれですか。 (あてはまるものをいくつでも) →回答後Q8へ	回答数	回答対象者	比率
太陽光発電システム (蓄電池なし)	17	24	70.8%
太陽光発電システム (蓄電池あり)	2		8.3%
太陽熱利用システム (給湯・空調)	7		29.2%
燃料電池 (エネファーム)	4		16.7%
ペレットストーブ	1		4.2%
その他 (自由記載)	0		0.0%
総計	31		-

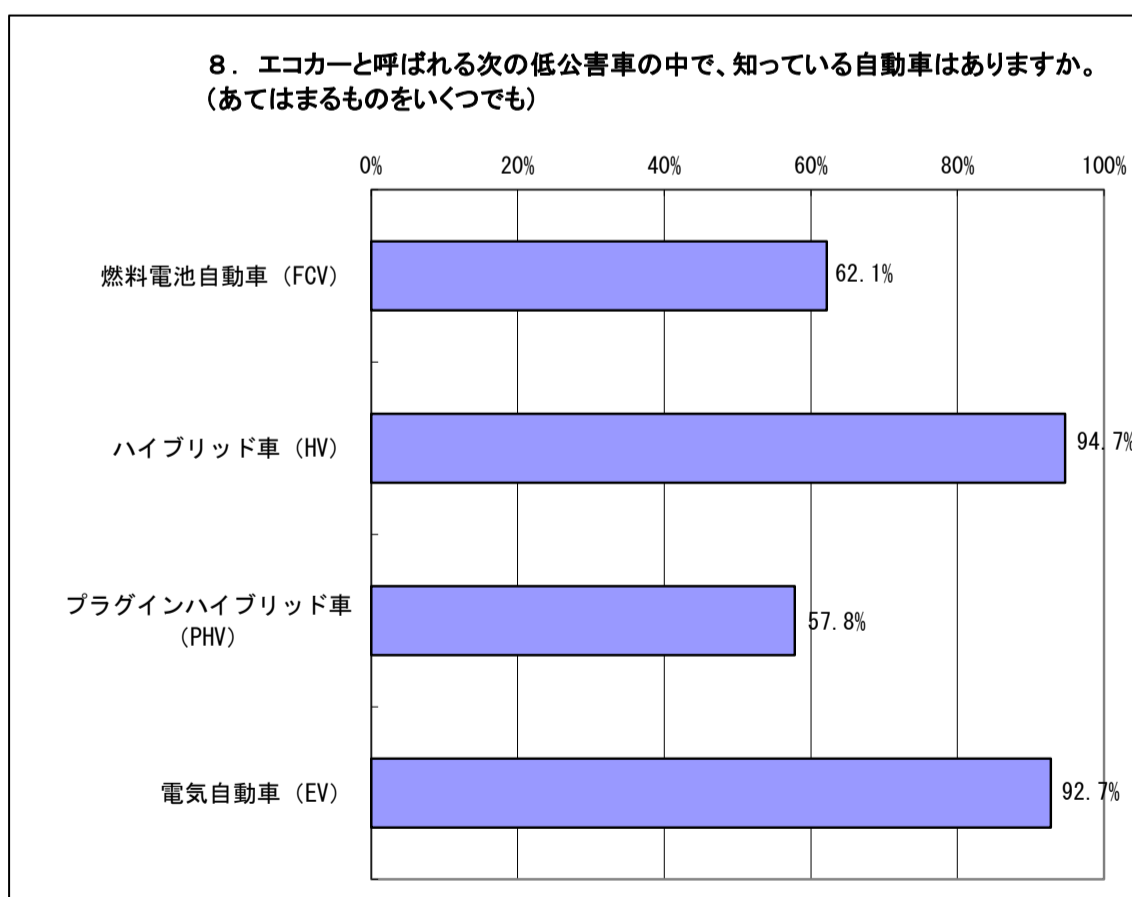


7. Q5で「2. 導入していない」を選択された方にお聞きします。 今後、ご家庭に「再エネ」設備を導入したいと思いますか。 →回答後Q8へ	回答数	回答対象者	比率
※選択肢5の理由記載例：マンションやアパートに居住しているため設置できない、スペースの都合により設置できない等			
導入を検討中	3	182	1.6%
近い将来導入を検討したい	11		6.0%
将来、費用が安くなれば導入したい	99		54.4%
導入するつもりはない	21		11.5%
導入したいが、できない (理由記載)	48		26.4%
総計	182		100.0%

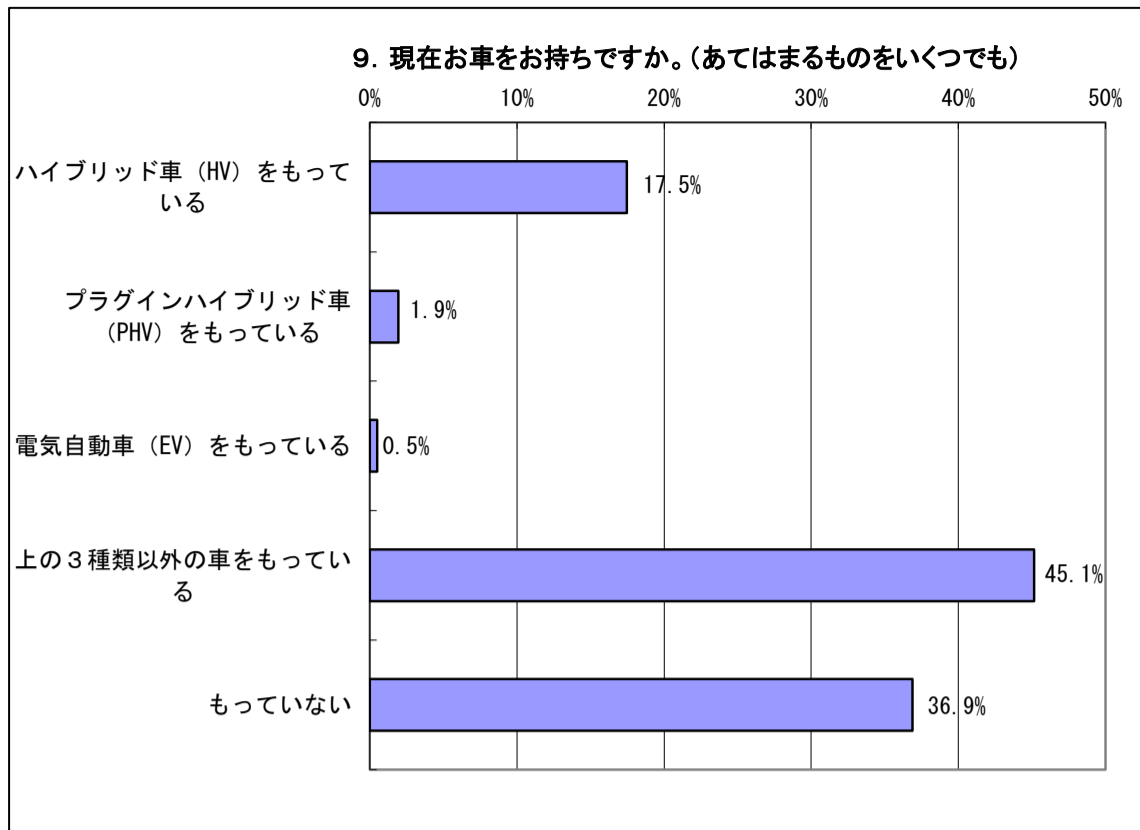
導入したいが、できない (理由記載)	一部抜粋
	マンションに居住しているため。
	賃貸アパートに居住しているため。



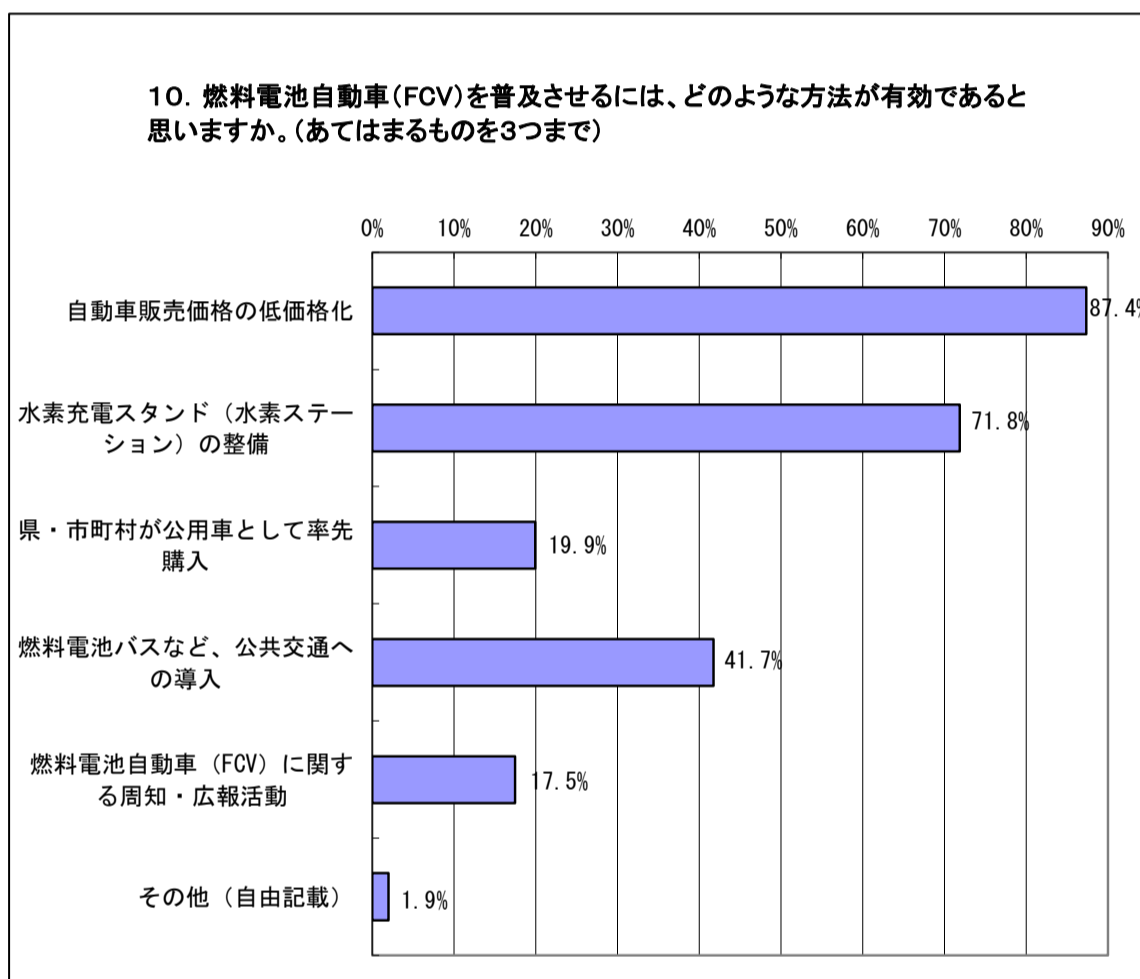
8. エコカーと呼ばれる次の低公害車の中で、知っている自動車はありますか。(あてはまるものをいくつでも)	回答数	回答対象者	比率
※「燃料電池自動車 (FCV)」：タンク内の水素と空気中の酸素を取り込み、化学反応により電気を作り、モーターで走行する自動車。			
※「ハイブリッド車 (HV)」：ガソリンで動くエンジンと、電気で動くモーターの2つの動力で走行する自動車。			
※「プラグインハイブリッド車 (PHV)」：家庭の電源などからもバッテリーに充電することができるハイブリッド車。			
※「電気自動車 (EV)」：蓄電池に電気を充電して、走行する。電気を動力源とする自動車。			
燃料電池自動車 (FCV)	128	206	62.1%
ハイブリッド車 (HV)	195		94.7%
プラグインハイブリッド車 (PHV)	119		57.8%
電気自動車 (EV)	191		92.7%
総計	633		-



9. 現在お車をお持ちですか。(同居家族の方がお持ちの場合も含めます) (あてはまるものをいくつでも)	回答数	回答対象者	比率
ハイブリッド車 (HV) をもっている	36	206	17.5%
プラグインハイブリッド車 (PHV) をもっている	4		1.9%
電気自動車 (EV) をもっている	1		0.5%
上の3種類以外の車をもっている	93		45.1%
もっていない	76		36.9%
総計	210		-

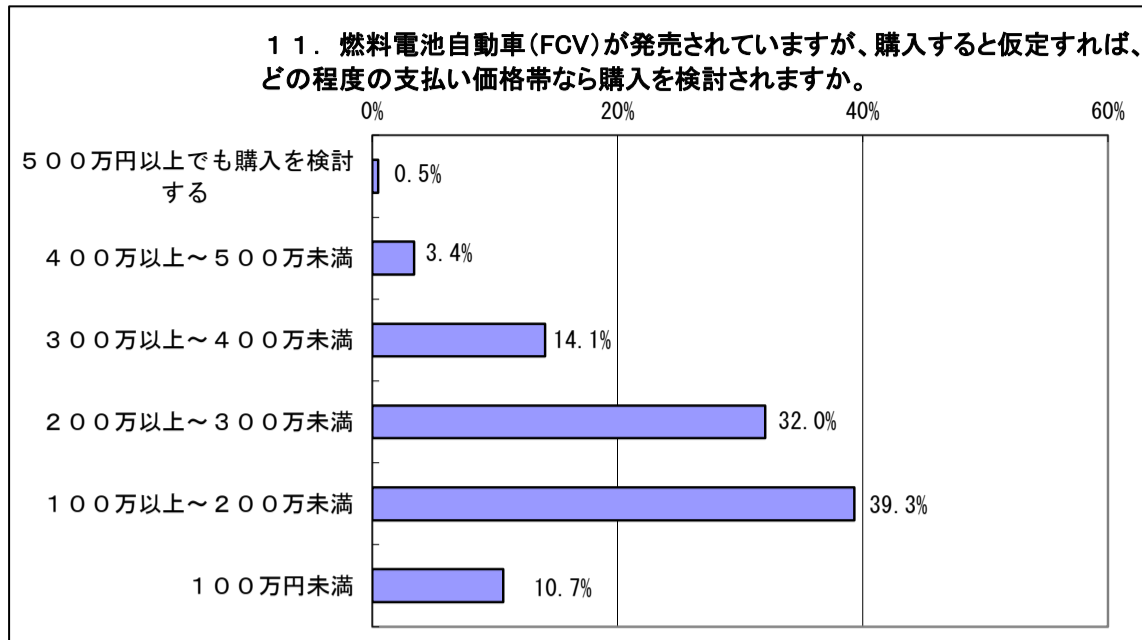


10. 燃料電池自動車 (FCV) を普及させるには、どのような方法が有効であると思いますか。(あてはまるものを3つまで)	回答数	回答対象者	比率
※「燃料電池自動車」はトヨタ「MIRAI」やホンダ「クラリティ」があります。トヨタ及びホンダ公式ホームページ掲載のメーカー希望小売価格は、「MIRAI」723万円、「クラリティ」766万円です。 また、登録台数は、平成29年3月末時点で、奈良県3台、近畿2府4県179台、全国1,813台となっています。<出典：(一社)自動車検査登録情報協会> ※燃料の水素を供給する水素ステーションは、平成30年5月時点で近畿2府4県12箇所、全国99箇所に設置されています。(奈良県未設置)<出典：燃料電池実用化推進協議会>			
自動車販売価格の低価格化	180	206	87.4%
水素充電スタンド(水素ステーション)の整備	148		71.8%
県・市町村が公用車として率先購入	41		19.9%
燃料電池バスなど、公共交通への導入	86		41.7%
燃料電池自動車 (FCV) に関する周知・広報活動	36		17.5%
その他(自由記載)	4		1.9%
総計	495		-



その他(自由記載) 一部抜粋  
販売価格ではなく税金を大幅に削減する、車検の間隔を例外的に3年以上に延ばす。

11. 燃料電池自動車 (FCV) が発売されていますが、購入すると仮定すれば、どの程度の支払い価格帯なら購入を検討されますか。	回答数	回答対象者	比率
500万円以上でも購入を検討する	1	206	0.5%
400万以上～500万未満	7		3.4%
300万以上～400万未満	29		14.1%
200万以上～300万未満	66		32.0%
100万以上～200万未満	81		39.3%
100万円未満	22		10.7%
総計	206		100.0%



12. 上で選択した価格以内であれば、購入したいと思う理由(あてはまるものをいくつでも)	回答数	回答対象者	比率
環境性能に優れているから	162	206	78.6%
災害時に発電機として使用可能だから	113		54.9%
誰かが買わないと普及しないから	51		24.8%
新しいものが好きだから	13		6.3%
デザインが良いから	4		1.9%
その他(自由記載)	14		6.8%
総計	357		-

その他(自由記載) 一部抜粋  
エンジン車と同価格帯になるので購入の検討が可能。

